

令和6年度 こども園評価表

( 中間・最終 )

竹原市立たけのこども園

基本理念及び教育・保育方針	「生きる力」を育成するために調和的な成長を図り、保護者や地域の期待に応える。	教育・保育目標	夢をもち 心豊かにたくましく生きる子供の育成	めざす子供像	げんきな子 やさしい子 がんばる子
---------------	--	---------	------------------------	--------	-------------------

評価計画				自己評価				こども園関係者評価			改善方針		
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	目標値	担当	10月	2月	評価	結果と課題の分析	評価			コメント	改善方針
					達成値	達成値			イ	ロ	ハ		
信頼される園 地域・保護者に信頼され貢献する園になる。	園の方針、教育・保育内容を保護者に周知し、理解を図る。	①園だよりを毎月、クラスだよりを学期に1回発信する。	100%	主任	100%	100%	A	①園だより、クラスだよりについては、計画通り発信することができた。園だよりでは、園内での様子だけではなく、園外の方々と交流の様子についても発信した。 ②子育て支援活動について、計画通り実施することができた。外部の講師による子育て支援活動への参加人数が少ない会があったため、育児サークルの日を活用し、開催予定を周知した。 ③教育及び保育並びに子育て支援事業についての自己評価を計画的に行った。子育て支援事業の自己評価では、より良い子育て支援につながるよう、アンケート項目を検討し、2種類のアンケートを作成した。	○			・園だよりの定期発行により、保護者との意思疎通が図られており、自己評価を行うことにより、内容の充実が図られていると思います。 ・園の活動の意図や子供の成長を見取る視点を保護者と共有するためにもおたよりは効果的だと思います。 ・外部の講師によるイベントは育児サークルと日付を同じにした方が、参加しやすい。今後も育児サークルに合わせて開催して欲しい。	①今後も、様々な経験の中で育てられている力について、写真等を用いて分かりやすく伝えていく。 ②ホームページの子育て支援の部分に、活動の様子を掲載するなどし、園の子育て支援活動に関心を持ち、身近に感じられるよう発信していく。 ③次年度も継続して取り組んでいく。 (教育及び保育)自己評価後のクラス会議は、他園の取り組みを参考にし、焦点を絞ることで、より内容を深めることができるようにする。 (子育て支援事業)自己評価を重ね、保護者が、安心して利用することができる環境を作っていく。
		②子育て支援活動を学期に3回以上実施する。	100%		100%	100%	A		○				
		③教育及び保育並びに子育て支援事業について自己評価を年2回実施する。	100%		100%	100%	A		○				
幼保小連携 こども園から小学校への円滑な接続を図る。	相互の教育・保育内容や児童・園児の様子を連携し、理解を図る。	①研修会に年3回以上参加し、学んだことを職員に周知する。	100%	主任	100%	100%	A	①中間報告と同様に研修会にすべて参加し、学んだことを職員会議等で共有できている。 ②11月と1月に中通小学校の1年・5年生に園に来てもらい、交流することができた。その中で園児と児童の交流だけでなく、保育者と教員が交流できたことで、互いの良かったことを共有することができた。また、竹原西小学校からDVDをいただき、小学校の様子を園児に知らせることができた。	○			・幼保連携に積極的に取り組んでおられ、目標に対し、成果が上がっていると思います。(お互いを思いやる等) ・小学校としても交流の形を工夫しながら持続可能な形で継続できればと思います。 ・小学校と交流を持つことで園児が「小学生になるの楽しみ」と感じられる。これからも継続して欲しい。	①引き続き、研修会で学んだことを職員会議で共有したり、資料を回覧したりし、園全体で架け橋期を意識できるようにする。 ②交流活動をすることで、園と小学校の様子を互いに知ることができた。来年度も引き続き交流ができるように連携をとり、計画を立てていく。
		②小学校(小学生)との交流を年1回以上実施する。	100%		100%	100%	A		○				
げんきな子 成長する喜びや健康への関心を高める。	食事のマナーの確立を図る。健康な体づくりを推進する。	①3歳以上は、「竹原市すくすくプラン2020」(令和6年)の目標値を目指す。 3歳→歯ブラシが正しく持てる。(12. 2%) 4歳→箸が正しく持てる。(34. 0%) 5歳→箸が正しく使える。(57. 0%)	100%	主任	97%	100%	A	①全クラス目標に達することができた。2学期になり製作活動(空き箱製作や折り紙等)に没頭する園児が多く見られるようになり、指先を使う遊びによって指先の巧緻性が高まり、正しい箸や歯ブラシの持ち方や使い方に繋がったと考える。 ②計画通り実施できた。	○			・箸の持ち方、歯ブラシの正しい持ち方は、鉛筆の正しい持ち方や手先の器用さにもつながるので、引き続き、製作活動など指先を使う遊びや活動を取り入れていく。 ②年間を通して行うことにより、その都度、意識して取り組めた。しかし、朝ご飯がお菓子や飲み物だけという園児もいたため、早寝早起きをすると、どのようなよいことがあるのかや、バランスのとれた朝ご飯を食べると、どのような楽しい園生活がおくれるのかなどを知らせていく。	
		②早寝・早起き・朝ごはんががんばりひょうを年3回実施する。(6月・9月・1月)	100%		100%	100%	A		○				
がんばる子 最後まであきらめない力を、年齢に応じて育む。	自己選択、目標の意識化、振り返りの場のある保育を実施する。	①振り返りを週に2回以上し、職員会議等で共有する。	100%	主任	100%	100%	A	①計画通り振り返りを週に2回以上行った。振り返りのねらいや方法について意見を出し合うことで、様々な振り返りの方法や効果があることを共有することができた。 ②異年齢交流をすることで、年齢ではなく、一人一人の興味や発達段階に合わせた運動遊びを楽しむことができた。	○			・園児が創意工夫する姿や探究心を養うための取り組みが成されており、感心しました。 ・異年齢交流はよい刺激になり、遊びの幅も広がってよいと思います。 ・異年齢交流を通して楽しく関わられるのがいいと思う。	①今後も、振り返りの方法について検討し、個の学びや活動に合わせた柔軟な振り返りができるようにする。 ②継続して異年齢交流を行い、園全体で一人一人の発達や興味にそった運動遊びを楽しめるよう取り組みを進めていく。
		②学期に1回運動遊び月間をもうけ、異年齢児交流を行う。(5月・9月・1月)	100%		100%	100%	A		○				
やさしい子 互いの気持ちや考えを伝え合ったり折り合いをつけたりして、よい関係をつくっていく。	関わり合う気持ちを育てる。	①園児の姿を週日案に記入する。年間10本のエピソード記述をするともにカンファレンスを行い、園児の育ちや援助の方向性について共有する。	100%	主任	100%	100%	A	①計画通り進められ、1月末現在で7本のエピソードカンファレンスを行うことができています。他クラスの職員とカンファレンスを行うことで園児の様子がよくわかり、その育ちを共有することや、自分に活かせる援助方法を知ることができ、有意義な時間になっている。 ②「自分から挨拶をする」という視点から「相手に伝わるように挨拶をする(返す)」「相手とのコミュニケーションのきっかけになるような言葉かけをする」を視点にして見取りをした。どのような挨拶がうれしい気持ちになるのか、よい例、悪い例で実際に保育者が実演することで気持ちのよい挨拶とはどのような挨拶なのかイメージしやすかったと考える。また、年長児が率先して挨拶をする挨拶活動を取り入れると、全クラス目標値を大きく上回る数値となった。	○			・園児と触れ合い、人との関わり方が十分に教えられていると思いました。大変な作業だとは思いますが、人間形成の根幹に係る事項だと思しますので、引き続き取り組んで頂きたいと思います。 ・今日もたくさんの子が挨拶をしてくれました。よく身につけていると感じました。 ・先生方が色々な子供たちを見てくれて、発達に合わせて評価してくれているのがすごいと思う。	①園児の育ちを同じ視点で共有できる「育みシート」を活用しながらカンファレンスを行い、今後も園児の育ちや発達段階、援助の方向性など共有していく。 ②引き続き、相手がうれしい気持ちになる挨拶とはどのような挨拶なのかを、年齢に応じてわかりやすく知らせていく。
		②気持ちの良いあいさつができる園児を75%以上にする。(5月・9月・1月)	100%		70%	100%	A		○				

【園関係者評価】

イ:自己評価は適正である。  
ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。